

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会報告

環境学における地球化学のあり方について

— 地球化学分野外へのアンケート集計結果 —

平成15年4月22日

日本学術会議

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

「 対外報告の要旨 」

1 . 報告書の名称

環境学における地球化学のあり方について

—地球化学分野外へのアンケート集計結果—

2 . 報告書の内容

1) 作成の背景

- ・ 社会的・学術的期待を担い、さまざまな学術分野を融合した環境学の創成が試みられている。
- ・ 地球化学を含む地球惑星科学は環境学の大きな部分を支える学問分野であると期待されている。
- ・ その多方面からよせられる期待は多種多様なものである。
- ・ 地球化学・宇宙化学のさらなる発展のためには、他分野から地球化学に寄せられる学術的な期待を知り、系統的に取りまとめる事が望まれる。

2) アンケートの内容と方法

- ・ 内容の概略は、環境学の捉えかた、環境学の研究・教育における軸足の位置、地球化学と環境学のかかわり、環境学に不足している地球化学分野、環境学教育における重点の置き所、についての意見である。
- ・ 環境学を研究・教育している所として、文教協会の全国大学一覧 13 年版から文系・理系を問わず、環境の字句を含む大学 / 学部 / 学科 / 専攻を選びだした。比較のために地球惑星科学教室 / 地球科学教室を加えた。
- ・ 上記機関の学科又は専攻を調査単位とし、309 箇所（付表 1）の責任者あてにアンケート（付表 2）を発送した。
- ・ 回答は担当者個人の意見とし、他分野からの意見を得る目的で、回答者が地球化学会の会員でないことを希望した。

3) 意見の要約と提言（本文 16～17 ページ）

- ・ 環境学は人間を中心として、人間を取り巻くさまざまな環境（自然、都市、社会、など）と人間の関わりを明らかにする学問と捉えられる。
- ・ 環境学が独立した学問として成長できるか否かは、記述的なものから、その根底にある“法則”に類するものを見出し得るかどうかにかかっている。そこから学問としての体系化がはじまる。
- ・ 環境学と地球化学とのかかわりは、これまで広く研究されてきた地球化学の“法則”を環境学の“法則”の一つとして位置付けることができた時、大きな飛躍が期待される。

「本件問い合わせ先」

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

委員長 田中 剛（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

電話 052-789-2595

e-mail tanaka@eps.nagoya-u.ac.jp

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

幹事 海老原 充（東京都立大学大学院理学研究科教授）

電話 0426-77-2553

e-mail ebihara-mitsuru@c.metro-u.ac.jp

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

幹事 清水 洋（広島大学大学院理学研究科教授）

電話 0824-24-7484

e-mail shimizu@geol.sci.hiroshima-u.ac.jp

(別紙)

3. 報告書等の対象者又は機関等

日本地球化学会、日本化学会、日本生化学会、日本分析化学会、大気環境学会、日本水環学会、日本地質学会、日本鉱物学会、日本岩石鉱物鉱床学会、日本古生物学会、資源地質学会、日本火山学会、日本地震学会、日本気象学会、日本海洋学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本陸水学会、日本惑星科学会。文部科学省、国民一般、大学研究者、マスコミ一般など

4. 記者への説明の意向

(イ) 資料配布のみ

「本件問い合わせ先」

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

委員長 田中 剛 (名古屋大学大学院環境学研究科教授)

電話 052-789-2595

e-mail tanaka@eps.nagoya-u.ac.jp

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

幹事 海老原 充 (東京都立大学大学院理学研究科教授)

電話 0426-77-2553

e-mail ebihara-mitsuru@c.metro-u.ac.jp

地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

幹事 清水 洋 (広島大学大学院理学研究科教授)

電話 0824-24-7484

e-mail shimizu@geol.sci.hiroshima-u.ac.jp

この報告は、第 18 期日本学術会議地球化学・宇宙化学研究連絡委員会の審議
を取りまとめて発表するものである。

第 18 期日本学術会議地球化学・宇宙化学研究連絡委員会

委員長 田中 剛 (名古屋大学大学院環境学研究科教授)

幹事 青木 謙一郎 (日本学術会議第 4 部会員、東北大学名誉教授)

海老原 充 (東京都立大学大学院理学研究科教授)

清水 洋 (広島大学大学院理学研究科教授)

委員 日下部 実 (岡山大学固体地球研究センター教授)

下山 晃 (高知学園短期大学学長)

田結庄 良昭 (神戸大学発達科学部教授)

留岡 和重 (神戸大学理学部教授)

中澤 高清 (東北大学大学院理学研究科教授)

中村 栄三 (岡山大学固体地球研究センター教授)

藤原 顕 (文部科学省宇宙科学研究所教授)

松田 准一 (大阪大学大学院理学研究科教授)

内容：

- 1 . はじめに
- 2 . 調査方法
- 3 . 集計結果
 - (1) 回答者の専門分野別の分布
 - (2) “環境学” をどのように捉えているか
 - (3) “環境学” を研究するに際しての軸足の在り処
 - (4) “環境学” をテーマにした講義の開講状況
 - (5) 地球化学以外を専門とする目から見た地球化学の研究手法と
研究対象への印象
 - (6) 地球化学は実生活に関連した学問とみえるか、それともロマンを
追う学問とみえるか
 - (7) 地球化学分野では “環境学” に含まれる研究がどれほど多く
なされているか
 - (8) 地球化学を研究あるいは教育している人が近くにいるか
 - (9) “環境学” の教育における地球化学の位置付けについて
 - (10) 不足している地球化学の分野と、余裕があれば取り入れたい
地球化学の分野
 - (11) “環境学” の教育はどうあるべきか、どこに重点を置くべきか
 - (12) “環境学” の教育についての個別意見
- 4 . 意見の要約と地球化学の反省点
- 5 . 提言

付表1 アンケートの送付先一覧 7 葉

付表2 「環境学における地球化学」についてのアンケート 2 葉